カルメル

霊性センターニュース

2022年7月　　３８８号

７月号【教会からの巻頭のことば】

「イエスにお目にかかりたいのです」（ヨハネ 12 章 21 節）

教皇フランシスコ　回勅『兄弟の皆さん』240-241

教会は、歴史の過程において利益をことにする社会集団の間に紛争が起こることは、避けられないこと、また、そのような紛争に直面して、キリスト者はしばしば誠実に、決然として一つの立場を取らなければならないことを十分承知しています。

正当な対立とゆるし

自分の権利を放棄することで、腐敗した権力者、犯罪者、あるいはわたしたちの尊厳を傷つける者をゆるすよう提案しているのではありません。わたしたちは、例外なくすべての人を愛するよう求められています。ですが、抑圧者を愛するとは、抑圧者が抑圧者のままでい続けるのを容認することではありませんし、自分がしていることは受け入れられていると抑圧者に思わせることでもありません。反対に、抑圧者を正しく愛するとは、抑圧をやめさせるさまざまな方法を探ることであり、使い方を知らずにいる権力、それによって人として醜くなってしまう権力を、抑圧者から取り上げるということです。ゆるすとは、自分の尊厳や他者の尊厳の蹂躙が続くのを容認することでもなければ、犯罪者が罪を犯し続けるのを放っておくことでもありません。不当な扱いを受ける人は、自分の権利や家族の権利をしっかりと守らなければなりません。それはまさしく、与えられた尊厳を、神が愛しておられるしるしである尊厳を、守らないといけないからです。犯罪者が自分自身や大切な人に危害を加えた場合、正義を要求することや、その犯罪者――あるいは別のだれか――によって、再び被害にあわないよう、ほかの人が同じ被害にあわないようにと心配することを、誰も禁じてはいません。そうする権利があるのです。ゆるしは、そうする必要を取り消すものではなく、むしろそれを求めるのです。

目次

教会からの巻頭の言葉・・・・・・・・・・・・・・・・1

目次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

心の泉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

カルメル会の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・２５

東京・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２６

京都・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３０

諸所の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３３

郵送お申込みのご案内・・・・・・・・・・・・・・・３８

あとがき・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３９

心の泉

宇治カルメル会修道院

第三巻

第四十九章　永遠の生命へのあこがれと、そのために戦う人に約束された大いなる報い

３　神が好むもの

あなたにとって楽しいこと、利益になることを求めないで、むしろ私の気に入ること、私の光栄となることを求めなさい。あなたの判断が正しいなら、あなたはすべての願望と希望とを差し置いて、私の命令に従うであろう。私はあなたの望みを知り、しばしば嘆くのを聞いている。あなたは「神の子らの味わう光栄の自由」(ローマ８・21)に入りたがっている。また、永遠の住居と喜びに満ちた天の国を望んでいる。しかし、その時は、あなたの上にまだ来ていない。まだ、ほかの時、すなわち、闘いと労苦と試練の時をくぐり抜けなければならない。あなたは至上の善に満たされることを望んでいるが、今はまだその時ではない、その至上の善は私である。主は、「神の国が来るまで私を待て」(ルカ22・18)と言われる。

４　強くて勇敢な者になりなさい

あなたはまだこの世で試され、さまざまに鍛えられなければならない。たびたび慰めを受けるが、しかしこの世には不足のない慰めはない。だから、本来なら好ましからぬことを、「元気を出して、勇敢におこなえ」(ヨシュア １・7)。「あなたは新しい人を着て」(エフェソ４・24)、別の人間になる必要がある。あなたは、望まないことをおこない、望むことを捨てなければならないであろう。他人の望むことは成功し、あなたの望むことは失敗に終わることがあろう。他人の言い分は聞き入れられ、あなたの言い分は黙殺(もくさつ)されることもあろう。他人は求めるものを受け、あなたは求めるものを受けないこともあろう。

他人は評判を上げ、あなたは取り残されることはあろう。他人には、あれこれ仕事が任され、あなたは役立たずのように思われることがあろう。

５　沈黙のうちに耐え忍ぶ

本来の人間はそれらを悲しく思う。しかし、だまってそれを忍ぶのは大いなる業である。

主の忠実なしもべは、このような、あるいはこれに似た方法で、どれほど自分を捨てるか、自分をどれほど抑えるかを試される。自分の意志に逆らうことを見たり、耐え忍んだり、あるいはまた、自分にとって不都合なこと、ほとんど無意味だと思われることを命じられる時ほど、自分に死ぬ必要を痛感することはない。そしてあなたは、他人の権力の下にあって上の者に反抗できないので、他人の指図のままに歩き、自分の意見を捨てなければならないのが、辛く思われるであろう。

カルメル山の聖母へのまなざし

マリアよ、
わたしは　あなたを眺めます。
あなたの祈りは　わたしたちに
祈りが　何であるかを教えてくれます。

祈りとは　自分のうちに
何も残しておくことなく
全存在をもって
神へ向かう動きであることを。＊

7 月 16 日　カルメル山の聖母の祝日

わたしたちは　様々な事柄に振り回され
どうしようもなく
自分自身の深みで求めているものから　切り離されてしまいます。
ときには闇が　わたしの上に鉛のように
重く覆いかぶさってきます。
そのようなことをすべて越えて
自分の深みに入りたいのに…　＊

ともに祈りのうちにつながって…

伊従　信子（いより　のぶこ）
ノートルダム・ド・ヴィ

＊1『神と親しく生きる　いのりの道』　聖母文庫、聖母の騎士社
＊2『神と親しく生きる　いのりの道』

創造主への賛美（55）

九里（くのり）　彰

「恐れ」が支配している限り、個人のレベルでも社会的レベルでも国際間のレベルでも本当の平和は訪れないだろう。

個人のレベルで言えば、私たちは絶えず何らかの恐れにとらわれているのではないだろうか。それは明確に意識されていることもあれば、ほとんど深層意識の中に眠っていることもある。後の方が厄介とも言えるが、前の方でも深刻な事態もあるかもしれない。

ところで、「オソレ」に関しては、聖書では二種類区別されていることに、だれもが気づく。すなわち、神へのオソレと神以外のものへのオソレである。前者に関しては「畏れ」が、後者に対しては「恐れ」という漢字が使用され、二つは区別されている。

主を畏れることは知恵の初め。聖なる方を知ることは分別の初め。（箴 9：10）

主を畏れることは知恵の初め。これを行なう人はすぐれた思慮を得る。主の賛美は永遠に続く。（詩 110：10）

「創造主への賛美」というテーマで書き綴ってきたが、ただ賛美するのではなく、そこには生きとし生けるものをつかさどる聖なる神への畏れがなくてはならないということになる。詩編では、「主の賛美」と結びつけられている。そのような意味で、神への畏れがなければ、神への賛美も超越的な次元に向かうことなく、人間の地平に引き下ろされことになるのではなかろうか。

主を畏れれば長寿を得る。主に逆らう者の人生は短い。（同 10・27）

単純に長寿の人が神を畏れる人で、短命の人は信仰の薄い者ときめつけることはできないが、主を畏れる者は神からの知恵を受け、思慮分別に長け、心身共に健康を保つということはできるかもしれない。「主を畏れれば頼るべき砦を得、子らのためには避けどころを得る」（同 14・26）。「主を畏れれば悪を避けることができる」（同 16・10）。

十字架の聖ヨハネのこぼれ話（170）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

忍耐の戦い②

第三は、次のようなことです。ある日、管区長がやって来て、彼（訳注：十字架の聖ヨハネのこと）に、われらの主は彼の仕事に報いを与えようと望んでおられると言った時、これにも彼は我慢できませんでした。

これら三つの不忍耐には、謙遜によって情状酌量の余地があります。しかし私は、このことも含めすべての罪について、ヨハネ修士は、間違いなく最後の告解において、告解したと思います。そこでは、もっと繊細に、不完全さや個人的な”小さな埃”に関しても思い巡らしたことでしょう。

病気の試練に襲われると同時に、彼の上には、ディエゴ・エバンヘリスタによって突如引き起こされたきわめて不名誉な迫害の試練もふりかかりました。そのことは、歴史を通して私たちに知られています。

列福や列聖の裁判とはまったく異なる彼を誹謗するその裁判は、彼がまだペニュエラにいた時、ウベダへ引っ越す前に始まりました。ディエゴ・エバンヘリスタ神父の横暴は、彼の最も親しかった人々の手紙によって、聖人の耳にも届きました。

現実の彼の忍耐は、彼の書いた言葉や会話から読み取ることができます。

カラバカの院長、聖アルベルトのアンナ姉妹には、こう書いています。

「･･･私の娘よ、われわれが今受けている困難をご存じでしょう。神は”選ばれた者たち”を試すために、これをお許しになるのです。**沈黙と希望のうちにこそ、われわれの力はある**（イザ 30・15、『会則』18）。神はあなたを守り、聖なる者にしてくださいますように。私のために神に祈ってください」。

そこにいた人々の内の一人がこの事件を暴露しようとした時、ヨハネ修士は、それについて同意しませんでした。その時、証人たちの前で彼が示した崇高な模範は非常に輝き、時をへだてて今日も私たちの前で輝いています。

「キリストのガブリエル修士は、管区長であった時、こう言うのが常でした。･･･十字架のヨハネ修父には、聖人と見なされる多くのことがあったが、私にとって彼を聖人と見なす何よりの理由は、だれかの悪口を言ったり、その人を追求したりする者の言葉に耳を貸そうとしなかったことだ。神の前に彼はよりふさわしい者になるかもしれないのだから、そういうことは言ってはいけないと、彼らに言っていた」。（P. 九里訳）

年間 第14主日（c）

（ルカ１０：1-１２、１７-２０）

本日の福音朗読は、弟子たちの宣教の旅についてです。全ての共観福音書が１２人の宣教を伝えている一方、ルカだけは７２人の第二の宣教を加えています。旧約聖書において、モーセは民を導き、治めるために７２人の長老を選びました。ここでルカは、イエスがご自分の訪問を告げるために７２人の弟子を二人ずつ町や村に送るという同じようなことをしたと示しています。このように、イエスはご自分のメシアとしての使命と、７２が象徴的な数だった全イスラエルの歴史とを結び合わせています。

弟子たちが使命を果たすためにイエスは二人ずつ送っています。２という数は、二人の証言を必要とする目撃者の重要性です。弟子たちは、生活のあらゆる局面で世界に愛をもたらすべきで、それを宣伝するように呼ばれているのです。彼らが二人ずつ出かけて行ったのは、キリストの弟子の協調性を示すためでした。キリストの弟子たちは、生きているときも、死においてさえも、神の愛を証言するために呼ばれています。収穫が準備されていることを示すある種の終末論的緊急性があり、早急の労働者への必要もあります。

収穫の比喩は、多くのキリスト者が感じることはない福音主義に関する緊急性を示唆しています。農夫にとっては、収穫の時は一年で一番緊急の季節です。同様に、会計士には税金の季節が、商人にとってはクリスマスシーズンが、学生や教師には期末試験のときが、ジャーナリストには原稿の締め切りが、最も緊急のときです。ほとんどの私たちは、普通の日には何事もなく過ぎますが、飢餓や、破産、生涯の終わりのような「収穫の季節」の失敗があります。収穫の季節の間の宣教の失敗は、同様に災害的な結果、あるいはそれ以上のものをもたらすことがあります。

７２人の弟子の使命は、神の使命です。神は、働くために、神の王国の良い知らせを宣言するために、恵みと力を与えてくださいます。神は不必要な物質的なものや、慰めから離れ、神にのみより頼む宣教の旅のため、主の道具に忠実であるように力と勇気を与えてくださいます。神はキリストとキリストの使命にのみ焦点をおくことができるように私たちを助けてくださいます。洗礼を受けたカトリック信者として、私たちも神の働きに参加し、神の王国を宣言するために呼ばれています。私たちは、祈りの人となり、真の福音宣教者となるためには、常に収穫の主に触れている必要があります。

(Sr. Paulina)

年間 第１５主日

（ルカ１０：２５−３７）

今日の福音ですが、「善きサマリア人」のたとえ話の箇所です。ある律法の専門家がイエスを試すために、何をしたら永遠の命を受け継ぐことができるでしょうかと尋ね、イエスからの問いに対し「心を尽くし、精神をつくし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を愛しなさい」と答え、イエスからは「正しい答えだ。それを実行しなさい。」と言われますが、律法学者は「わたしの隣人とは誰ですか」尋ね、イエスは「善きサマリア人」のたとえを話されました。

追いはぎに遭った人と出会った人々の姿が語られます。最初は祭司、神に仕える人が道を下って来、その人と出会いますが、その人を見ると、道の向こう側を通って行ってしまいます。神に仕える者なのに、同朋が倒れているのに、そのまま行くとはどういうことでしょう。そして次にレビ人が通ります。彼らは祭司の一族ですが、祭司と同様にその人を見ると、道の向こう側を通って行ってしまいます。

そして最後に通ったサマリア人、ユダヤ人と普段交際しないその人がその人を見て、心を動かされて憐れに思い、それだけでなく近寄り、さらに傷に油とぶどう酒を注いで、包帯をして自ら手当をし、宿屋に行って介抱します。自分がずっと傍にいられないため、宿屋の主人に介抱をお願いし、費用がもっとかかるのであれば、帰りに払うと言います。　誰が追剥ぎに襲われた人の隣人になったのでしょう。律法学者が答えた様に、助けた人、サマリア人であり、イエスは行って、あなたも同じようにしなさいと言われます。

私たちにとって、隣人とは誰なのでしょうか？　今となりにいる人？　家族、親戚？隣の家の人？　学校や社会でともに生きる人？　特定の人を思い浮かべようとするなら、最初から枠を嵌め、対象を狭めてしまうことになってしまうでしょう。すでにある人、決まっている人、決められている人が隣人ではないのでしょうね。

私たちは日常生活の中で、様々な人と出会います。一瞬のすれ違い、一瞬の出会い、もしかすると生涯２度と会うことのない人がほとんどかも知れません。その様な中で、助けが必要な人に出会った時に、憐れに思い、心を動かされ、善きサマリア人の様に、私たちが「隣人」になる様に、とイエスは私たちを招いておられます。

慈しみ深い父なる神は、私たちに目を留めて憐れに思い、愛する独り子を遣わされ、人となられた神の御独り子は、私たちの罪の贖いのため、十字架上で命を捧げて下さいました。神が私たちの隣人になられたのです。このことを想い、私たちが日々出会う人、助けが必要な人の隣人となり、歩んでゆくことができますように。

（Fr.　古川利雅）

年間 第１６主日（C）

（ルカ１０：３８－４２）

「しかし、必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない」

今日はとても有名な福音箇所です。客人への本当のおもてなしとは何かについて描かれています。現代人の視点から見ると、マルタのふるまいが正しく、マリアは間違っていますが、福音では全く違います。彼女達の自宅を訪れたのはただの客ではありません。王の王、主の主であり、受肉された神のみ言葉です。この姉妹から物質的な生活と霊的な生活について最も大切なことを学べます。

職場や私生活では、私たちはやるべきことを取捨選択して優先順位を付け、ものごとが円滑に進むように自分の時間、労力、才能を使います。福音によると、「マリアは主の足もとに座って、その話に聞き入っていた。マルタは、いろいろのもてなしのためせわしく立ち働いていた」のでした。姉妹は、それぞれ自分の行動を選びました。マリアは主がそこにおられることを喜ぶ一方、マルタは心配ばかりしていました。マルタは、主の注目を浴びるべくマリアが自己中心的にふるまっていると勘違いして怒りました。逆にマリアは、主の足元でみ言葉に聞き入ることが、物質的な奉仕や義務に勝っていると知っていたのです。

ただ実際には、マルタはイエスを歓待したいという良い意向を持っていました。しかし準備が山積みになると、妹について主に抗議するという間違った選択をしました。「（主は）人間が見るようには見ない。人は目に映ることを見るが、主は心によって見る」（サムエル記上１６：７）ことをいつも心に留めておくべきです。

神は、マルタの姿を通じて、同じような場面では正しい選択をするようにと私たちを諭されます。私たちは、マリア同様、イエスとの聖なる時間を大事にすることに召されているのです。主との出会いを決して逃さないようにしましょう。

(Sr.Paulina)

年間 第17主日

（ルカ１１：１−１２）

祈りを終えたイエスに弟子は願いました。「主よ、ヨハネが弟子たちに教えたように、わたしたちにも祈りを教えてください。」弟子はイエスの祈る姿を見て、あんなふうに祈ってみたい。あんなふうに神に信頼を寄せて祈りたい、と思ったのでしょう。

そこでイエスは言われました。「祈るときには、こう言いなさい。『父よ、御名が崇められますように。御国が来ますように。わたしたちに必要な糧を毎日与えてください。わたしたちの罪を赦してください、わたしたちも自分に負い目のある人を皆赦しますから。わたしたちを誘惑に遭わせないでください。』」

「あなたの祈りをぜひ教えてください」との願いに対して、イエスが教えてくれたのが主の祈りでした。この祈りを唱えることで、私たちもイエス様のような祈りができるようになるということだと思います。

続くたとえで、イエスは、しつこく、粘り強く祈ることを教えています。「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる。あなたがたの中に、魚を欲しがる子供に、魚の代わりに蛇を与える父親がいるだろうか。また、卵を欲しがるのに、さそりを与える父親がいるだろうか。このように、あなたがたは悪い者でありながらも、自分の子供には良い物を与えることを知っている。まして天の父は求める者に聖霊を与えてくださる。」

父への信頼の祈りである主の祈り。これを粘り強く祈り、求め、探し続けるならば、最終的に、天の父は、私たちに聖霊を与えてくださるとイエスは教えています。聖霊は神の愛、御父の賜物、イエス様の心です。祈り、求め続ける私たちに、御父はイエス様の心を与えてくださるのです。そのとき初めて、「イエス様、あなたの祈りを教えてください」との弟子の願いはかなえられるのでしょう。

主の教えてくださった祈りを、日々、粘り強く祈りながら、私たちもイエス様のような心で祈り、生きる人になっていくことができますように。

（今泉健 神父）

年間 第１８主日（C）

（ルカ１２：１３－２１）

今日の福音は、群衆の一人のこの一言で始まります。「先生、わたしにも遺産を分けてくれるように兄弟に言ってください」。ここでは明らかに、亡くなった人の遺産を巡って親族間で争いが起こっていたようですが、当時こうした家族の争いを解決するのは賢者とされていた律法学者や教師たちでしたので、イエスに声がかかったに違いありません。しかしイエスは、「だれがわたしを、あなたがたの裁判官や調停人に任命したのか」と答えて、関与することを拒否します。そしてイエスは、家族の財産や所有物への貪欲と執着が渦巻いているのを見抜き、愚かな金持ちのたとえを話されました。

たとえ話の金持ちは、豊作を迎えて大喜びです。新しい倉を建てて穀物を蓄え、これから裕福な生活を満喫できると思い込んでいます。「金持ちであればあるほど幸福になれる」と信じて自分を世界の中心に置き、物質的な富に注力します。自分自身と楽しみ以外には全く目もくれないのです。そんな彼に対し、神は「愚かな者よ」と言います。自分の豊かさを享受できないままその晩、命が取り上げられるからです。

皆さん、物質的な財産は、一秒たりとも私たちの寿命を延ばすことができないことを肝に銘じておきましょう。私たちは一人残らず神のあわれみによって生かされており、日々のあらゆる恵みに感謝をささげるべきです。死がいつ訪れるかは誰にも分かりません。その終わりの日をいつでも喜んで迎えられるよう、その日、その時まで心して生きなければなりません。

この愚かな金持ちのたとえ話を通じて、イエスは、富そのものや財産を増やしたいという望み自体を非難していません。ただ、「どんな貪欲にも注意を払い、用心しなさい。有り余るほど物を持っていても、人の命は財産によってどうすることもできないからである」（ルカ１２：１５）と「自分のために富を積んでも、神の前に豊かにならない者はこのとおりだ」（同１２：２１）という点をはっきり示しているのです。

(Sr.Paulina)

糸巻き棒からペンへ(77)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス　OCD

これらのページやその他の著作の教えを引きながら、私は彼女が書かなかった、しかし彼女のテキストから作られた一つの手紙を提供いたします。こうして、私たちは、一人ひとりが彼女によって直接的かつ嘆願的な仕方で導かれるように、その手紙を完全に読むことができるでしょう。彼女がいつも手紙でそうしていたように、私たちも始めましょう。

イエス。聖霊があなたと共にありますように。

祈りは霊魂の命です

聖母のこの小さな鳩小屋の中に私がいた時、霊の事柄に対するあなたの関心を私は知りました。それによって私は大きな慰めをいただきました。私が祈りのことについて理解していることをあなたに書くよう、何度もせがまれましたので、ここで他の箇所で書いたことのいくつかに従いながら、書くことにいたしました。これを読む人にとってわれらの主をもう少し深く愛するために役立つことを信じながら。主に栄光が世々にありますように。アーメン。

さて、愛の僕（それは、祈りの道を通って私たちを深く愛された方に従って行く決心をすること以外の何ものでもないと私には思われます）となり始めた人々について語るならば、それはとても大きな尊厳であり、僕たちと交わろうと喜んでへりくだられる神と、私たちが親密な交わりを持つことができると考えることは、とても楽しいことです。この地上ではそれほど大きな善を何ものによっても買うことができないということを、私はよく知っています。祈りとは、神と交わる以外の何ものでもないのですから、神はこの流謫の地で被造物に大きな恵みを与えようと、彼らと交わることを望まれるのです。神が祈りの中で私たちに贈りたいと望まれる恵みを受け入れる心の準備を、私たちがするならば、主はその御心の宝を私たちに開かれるでしょう。というのも、誠実な心で神を探し求めている者に、神は御自分を拒まれることはないからです。

（P.九里訳）

いのちの言葉 ７月

必要なことはただ一つだけである。

（ルカ 10・42）

イエスはご自分の使命を成し遂げる時がきたことを知りエルサレムに向かって旅をしておられます。 その途中、ある村に入りマルタとマリアの家に立ち寄られます。

福音史家ルカは、この二人の姉妹がイエスを迎える様子を次のように記しています。マルタは伝統的な家庭の主婦の役割を果たし、色々なもてなしのため「せわしく立ち働き」1 、一方、妹のマリアは「イエスの足もとに座って、その話に聞き入っていた」と。（39 節）マルタの態度と一心にイエスに耳を傾けるマリアのそれは対照的です。自分一人にもてなしをさせるマリアに苛立つマルタに対して、イエスはおっしゃいます。「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。しかし、必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない」と。(41-42 節）

ルカ福音書のこの箇所は、隣人愛の最高峰ともいえる「良きサマリア人のたとえ」と、父なる神との親密さをこの上なく表している「御父への祈り」をイエスが弟子たちに教える場面との間に挿入されています。このことからも、今月のみ言葉は、「隣人への愛」と「神への愛」とのバランスを取る上で、特に重要な箇所であると言えるでしょう。

必要なことはただ一つだけである。

今月のみ言葉の主人公は二人の女性です。イエスとマルタの会話の中で、妹に対する不満を率直にイエスに訴えるマルタの様子から、彼女とイエスとの親しい間柄が見て取れます。

ところで、イエスは何をマルタにお望みなのでしょう。イエスの心にあることは何でしょう。それは、マルタが何も心配せずに女性の務めとされる台所仕事を脇に置いて、マリアのように、弟子として新たな自覚をもってイエスの言葉に耳を傾けることです。

この聖書の箇所は、しばしば、活動生活と観想生活と言った、修道生活の二つの形態を表すというような、極めて狭い意味にとられてきました。しかし、マルタもマリアもイエスをこよなく愛し、二人とも心からイエスにお仕えしたいと願っているのです。実際、福音書には、祈りやみ言葉に耳を傾けることの方が愛の行いを実践することより重要だとはどこにも書かれていません。むしろ、重要なのはこの二つの愛をひとつにすることでしょう。「神への愛」と「隣人への愛」、この二つの愛は対立するものではなく、相互に補完し合うものです。愛は一つだからです。

必要なことはただ一つだけである。

では、「必要なことはただ一つ」、これは一体何のことでしょうか。「マルタ、マルタ・・・」(41 節)、という冒頭の言葉に、そのヒントがあるように思えます。ほとんど叱責のようにもとれるこの名前の繰り返しの中に、その答えを見出すことができるでしょう。つまり、イエスは、マルタがもはや仕える者としてではなく、イエスの親しい「友」となり、これまでとは異なる新たな絆でご自分と結ばれることをお望みなのです。

これに関して、キアラ・ルービックはこう記しています。*「このような状況を利用して、イエスは、人間の生活に最も必要なものは何であるかを語られます。… それは、イエスの言葉に耳を傾けることです。そして、この福音を記した聖ルカにとって、み言葉に耳を傾けるとは、み言葉を生きることなのです。… これは、あなたも実行すべきことです。つまり、み言葉を受け入れ、あなたの内で、み言葉が変化をもたらすに任せることです。それだけではありません。ちょうど大地が種を抱き、やがてそれが芽を出し、実を結ぶように、あなたも又、み言葉に忠実に、み言葉を常に心に留めながら、み言葉によってあなたの人生が形づくられていくように努めることです。要するに、み言葉の実りである、新たな生命(いのち)の実りをもたらしていくことです」*[2] と。

必要なことはただ一つだけである。

マルタとマリアのように、イエスを家に迎え、真の弟子としてその足元に座って耳を傾けるひとときが、私たちにどれくらいあるでしょうか。多くの場合、思い煩い、病気、様々な用事、さらに喜びや満足感でさえも、あれもこれもやらなければという渦の中に私たちを巻き込み、立ち止まって、イエスの存在に気付き、その声に耳を傾ける時を見失っているかもしれません。

今月のみ言葉は、より良いものを選ぶための訓練となるだけではありません。み言葉に耳を傾けることで、内なる自由を感じながら日々行動できるようになるからです。その行動は、奉仕と傾聴に意味を与える、まさに「主イエスとの愛の関係」から生まれてくる実りと言えます。

必要なことはただ一つだけである。

レティツィア・マグリ

1.この言葉には２つの意味があります：「多忙を極める」又は「うわの空・不注意」の意味
2. キアラ・ルービック、いのちの言葉 1980 年 7 月

＊いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

連絡先：フォコラーレ　東京 03-3330-5619/03-5370-6424　長崎 095-849-3812
E-mail:tokyofocfem@gmail.com　ホームページ：https://www.focolare.org/japan/

跣足カルメル修道会HP（International）

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ http://www.carmelitaniscalzi.com の記事を紹介します。

<< **Communications**（時事通信）>>　　2022年５月３１日

ローマのテレジアーヌム（教皇庁立国際学院）、幼きイエスの聖テレーズの教会博士称号授与25周年記念を祝賀

去る5月13日にテレジアーヌムは、幼きイエスの聖テレーズの教会博士称号授与25周年記念を祝し、研究者が会して市民とともに学問に親しみ魅力を深める「対話」の場、アカデミックデーを開催しました。午前のセッションでは、教授のフランソワ・マリー・レテル神父が“神学的統合としての、ある霊魂の物語”を、そして教授のブルーノ・モリコニ神父は“リジューの聖テレーズ、力ある女性”をテーマに其々講演しました。午後は、教授のフランチェスコ・アスティ神父、シスター アントネラ・ピッチリーリ、エミリオ・マルティネス神父が“なぜ教会博士であるリジューの聖テレーズが現在大切なのか”の表題で講演しました。

これらの講演は全てテレジアーヌムのYoutube:
www.youtube.com/c/teresianumroma で視ることができます。

夕方６時にテジアーヌムの総長、ミゲル・マルケス・カジェ神父はレテル神父とモリコニ神父の講演について敬意を表しました。総長は、この両教授を讃えて長年にわたる彼らの講義と学問的研究への寄与に感謝しました。その後、彼らに敬意を表して準備された特別発行誌“テレジアーヌムの回想”『フランソワ・マリー・レテル神父とブルーノ・モリコニ神父における研究』が贈呈されました。

最後に跣足修道会総長は、「司祭、兄弟であるフランソワ・マリー レテル神父、貴方が行動し生きたすべてのことへの情熱と熱心さ、そしてあなたの生活と奉献は“霊魂のため”であることに感謝します。また優れた師の尊い教えである、神が示されたことをその弟子の精神で生きるあなたの心がけに感謝します。親愛なる司祭、兄弟であるブルーノ・モリコニ神父、あなたの人間性、私たちに示された神学の優れた人間的側面、キリストを中心におき、分かりやすく重要な事柄を表現し、そして恩寵がどのように市中の素朴な人に与えられるかを教えたこと、これらすべてに感謝します。」と述べられました。

（訳：小宮山延子）

2022年４月１２日

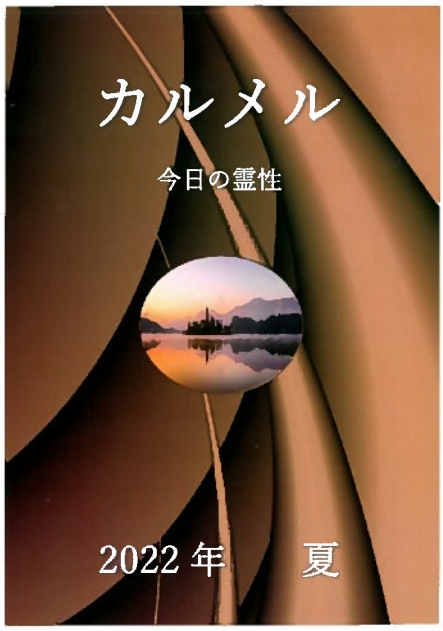
イエスの聖テレジア列聖400年記念祝賀式典

アビラ

去る３月１３日日曜日に、「イエスの聖テレジア列聖400年」を記念する聖年の扉がアビラの司教、モンセニョール・ホセ マリア・ギル・タマヨによって開かれ、聖テレジアの聖年が表明されました。ラ サンタ カルメル会修道院の教会はこの聖年地です。信徒たちは篤い信仰心で式典を見守りました。これには司教の他に、市民、修道者、大学、軍隊、警察の代表者たちが参列し、式典はスペインのテレビ局TVE２が報道しました。アビラの司教はリベリアの管区長アントニオ アンゲルサンチョ神父OCDとラ サンタ 修道院長デイビッド ヒメネス神父OCDに伴われました。アビラ市の交響楽団はこの式典で国歌を演奏し、記念ミサではラ サンタ グレゴリア聖歌隊が歌い、その後の市内行列にはエル アマラオ バンドがトランペットとドラムで伴奏しました。

（訳：小宮山延子）

カルメル誌　新刊案内



2022年 夏号 No.385

エディット・シュタインの言葉 抄(二)　釘宮明美

道の霊性(続)第二回
　平和の道への導きを信じて　田畑邦治

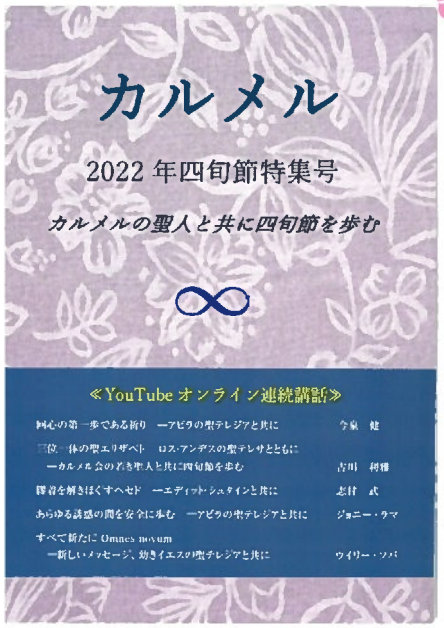
日々の出来事の中で 神の霊は導く(2)
　—カルメル会への道のり　伊従信子

風に吹かれて再び(2)
　—こんなふうに生きたい　原 造

聖ヨセフ II　ポーリン・フェルナンデス

キリストの説かれた 幸いなる道(6)　九里 彰

霊的研究会講義録(16)－聖書・祈り・愛について
　奥村一郎



2022年 特集号
カルメルの聖人と共に四旬節を歩む

回心の第一歩である祈り
　—アビラの聖テレジアとともに　今泉 健

三位一体の聖エリザベト
　ロス・アンデスの聖テレサとともに
　—カルメル会の若き聖人と共に四旬節を歩む
　古川利雅

膠着をときほぐすヘセド
　—エディット・シュタインと共に　志村 武

あらゆる誘惑の間を安全に歩む
　—アビラの聖テレジアと共に　ジョニー・ラマ

すべて新たに Omnes novum
—新しいメッセージ、幼きイエスの聖テレジアと共に
　ウィリー・ソバ

ご案内　1 冊 580 円　A5 サイズ　50～70 ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、760 円【580 円（+送料 180 円)】程度の献金を下記へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費（年 5 冊：春夏秋冬+特集号　計　3,600 円）を下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457　跣足カルメル修道会

●お問い合わせは、事務担当：内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又は e-mail で。

〒159-0093 世田谷区上野毛 2-14-25　Fax: 03-3704-1764
E-mail: carmelshi.jimu@gmail.com

新刊紹介

ロザリオの祈り

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた ニコラオ・プレシェル神父の講話 II

【出版社】 教友社
【著　者】小野崎良子：編

価格 1,650 円（税込）
品番/ISBN：9784907991807
発売/発行年月：2022 年 3 月
判型：A5
ページ数：184

「ニコラオ神父様が、ロザリオの祈りを捧げながら歩いているときに、突然十五の玄義の流れが鮮明に示され、ご自分の中でまとまったその内容をわたしたちに語られました」（「はじめに」より）。ニコラオ師亡き後、師の薫陶を受けた信徒たちによって記録された講話が 1 冊の本に。中川博道師（カルメル会）推薦。

小野崎 良子(おのざき・りょうこ)
1950 年夕張市大夕張の炭鉱の町に生まれる。小学 4 年生の時、「クリスマスにはプレゼントがもらえる」という級友の誘いに乗り、高校卒業まで熱心にカトリック教会に通う。その後地元を離れ旭川の学校に進学。青春を謳歌する日々の中、ふと感じた「空虚さ」を確かめるために再度教会(大町教会)を訪ねる。そこでニコラオ神父様に出会い受洗にいたる。
39 年間の教職生活を終えた後、ラジオで流れたキャロル・サック宣教師の歌とハープに触発され、日本福音ルーテル社団主催「リラ・プレカリア(祈りのたて琴)研修講座」にて 2 年間の養成を受ける。現在は求めに応じて、病床にある方、高齢者などを訪問し歌とハープによる祈りをお届けしている。

ニコラオ・プレシェル神父
1921 年、(旧)チェコスロバキアに生まれる。1940 年、ドイツ軍無線通信兵として従軍。
1946 年、フランシスコ会に入会(ドイツ・フルダ管区)し、1952 年、司祭に叙階される。
1953 年、来日。1956 年、カトリック名寄教会着任。以後、美唄教会、大町(旭川)教会、枝幸教会、稚内・枝幸教会、富良野教会にて司牧。
2001 年以後、フランシスコ会札幌修道院、月形町藤の園にて療養する。
2007 年 1 月 6 日、月形町藤の園にて帰天(85 歳)。

書籍紹介　　十字架の聖ヨハネ理解のための

待望の書　　翻訳刊行

『十字架の聖ヨハネの霊性』

フェデリコ・ルイス師の講話

〈十字架の聖ヨハネ・霊性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス
訳者：九里 彰
判型：B6 判並製
ページ数：184 ページ
価格：本体 1,600 円+税
ISBN：978-4-8056-3918-4 C0016
発行：サンパウロ

スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた聖人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットや AI が発達する、「霊性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、霊性を正しく理解することの基礎となっていきます。

フェデリコ・ルイス・サルバドル

1933 年スペイン、バレンシア生まれ。1950 年跣足カルメル修道会入会。1957 年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジアーヌム教授。2018 年 10 月 27 日マドリードにて帰天。享年 85 歳

九里　彰

カイルメル修道会司祭。1981 年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程修了。1990 年カルメル会入会。1997 年司祭叙階。1999~2002 年スペイン留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長

サンパウロ

愛と英知の道

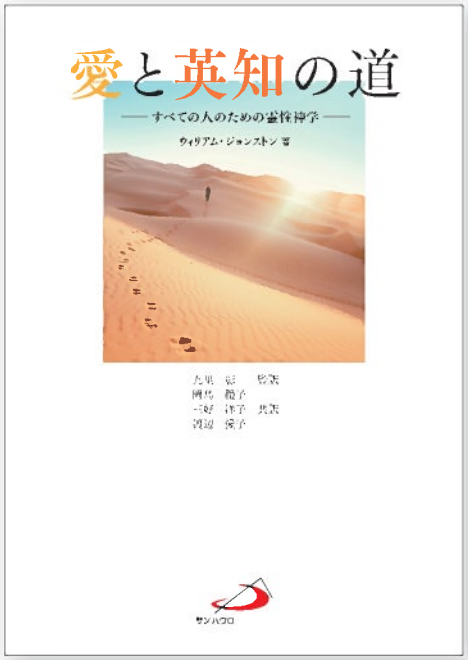
―― すべての人のための霊性神学 ――

ウィリアム・ジョンストン 著

九里　彰　監訳
岡島　禮子　三好　洋子　渡辺　愛子　共訳

西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21 世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生活の道しるべ。『すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが 16 世紀に向けてなしたことを、21 世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渇望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにしておられる方々にも、本書を勧めています。



第一部　キリスト教の伝統
第1章　背　景（1）
第2章　背　景（2）
第3章　理性 対 神秘主義
第4章　神秘主義と愛
第5章　東方のキリスト教
第6章　愛を通して生まれる英知

第二部　対　話
第7章　科学と神秘神学
第8章　修徳主義とアジア
第9章　神秘主義と根源的なエネルギー
第10章　英知と〈空〉

第三部　現代の神秘的な旅
第11章　信仰の旅
第12章　浄化の道
第13章　暗　夜
第14章　〈愛のうちにある〉
第15章　花嫁と花婿
第16章　一　致
第17章　英　知
第18章　活　動
第19章　社会活動の神秘主義

ウィリアム・ジョンストン　William Johnston S.J. (1925-2010)
北アイルランドのベルファストに生まれる。
イエズス会に入会し、26 歳で来日。
32 歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教を上智大学などで講じるかたわら、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。ペドロ・アルペ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、遠藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85 歳で帰天。

• A5判 • 600頁 • 並製 • 定価 3,400円+税 • ISBN978-4-8056-0064-1　C0016

書籍案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美　編

A５判・312 頁・2500 円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など――危機にさらされている人間の救済の道を探る。

――――目次――――

序　「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
1　東日本大震災と宗教／中下大樹
2　宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
3　東日本大震災に思うこと／佐藤純一
4　脱原発の倫理／久保文彦
5　何のために働くのか／神谷秀樹
6　グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
7　私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
8　関係の倫理学／清水正之
9　宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
10　V・フランクルのロゴテラピー／桑原直己
11　「神の子となる」――カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
12　「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
13　エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所　TEL:03-3322-7601　FAX:03-3325-5322
ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

福者マリー＝ユジェーヌ神父に導かれて

十字架の聖ヨハネの
ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5　C0195
定価**540**円（税込）
【聖母文庫】287

第2版 好評発売中！

マリー＝ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネを生き、体験し、確認した教えなのです。ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの教えは現代の人々にも十分適応されます。また、神の命を伝え、実践的手段を示して聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の配慮が伝わってきます。（「はじめに」より）

神と親しく生きる
いのりの道
福者マリー＝ユジェーヌ神父とともに

R. ドグレール / J. ギシャール 著
伊従 信子 訳

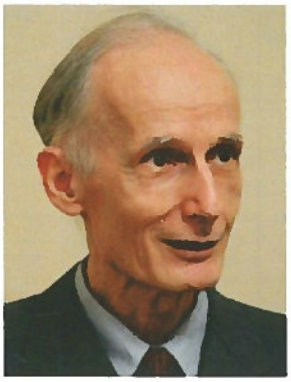
ISBN978-4-88216-307-7　C0195　【聖母文庫】246
定価**540**円（税込）209頁

わたしは神をみたい
いのりの道をゆく
マリー＝ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

ISBN978-4-88216-339-8　C0195　【聖母文庫】268
定価**648**円（税込）281頁

ご注文・お問い合わせ先
聖母の騎士社　〒850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080　FAX.095-823-5340



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

（全五巻）四六版・４３４頁～６２８頁

各巻　本体 3、８００～5、０００ 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構架して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は４０余年の著述活動による１５０余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN 定価（本体＋税）
第1巻	**Ⅰ　超越体験　—宗教論** 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全 11 作、434p	9784862852151 3,800 円＋税
第2巻	**Ⅱ　真理と神秘　—聖書の黙想** 日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全 35 作、544p	978-4862852175 4,600 円＋税
第3巻	**Ⅲ　信仰と幸い　—キリスト教の本質** 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」をとおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全 38 作、628p	9784862852205 5,000 円＋税
第4巻	**Ⅳ　思惟の歴史　—哲学・神学的小論** 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐっての根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに拡げて信仰生活の深みに掘下げる。全 41 作、448p	9784862852212 4,000 円＋税
第5巻	**Ⅴ　自己の解明　—根源への問いと坐禅による実践** 信仰との関わりの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です！」収録。全 35 作、470p	9784862852229 4,200 円＋税

●リーゼンフーバー，クラウス［Riesenhuber, Klaus］

1938 年ドイツ生まれ。1958 年イエズス会入会。1967 年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969 年上智大学文学部哲学科専任講師。1971 年東京で司祭叙階。1974 年上智大学中世思想研究所所長（-2004）。1981 年上智大学教授。1989 年上智大学神学博士。国公私立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009 年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知　泉　書　館　〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166
http://www.chisen.co.jp

カルメル会の企画案内

カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19：10）

東京 上野毛 霊性センター

黙想企画　＊＊上野毛 聖テレジア修道院（黙想）＊＊
（２０２２年～）

・祭日のミサに参加するために
　　チェックイン午後３時以降可、チェックアウト午前１０時
【クリスマス】
　　１２月２４日(土)～２５日(日) 朝食 ≪講話なし、夕食なし≫

・聖書深読黙想会(土曜日１７時～日曜日１６時)　大瀬高司 神父
　７月１６日～１７日　　２０２３年
　９月　３日～　４日　　２月２５日～２６日
　１１月　５日～　６日

・《カルメル会聖人に学ぶ黙想会》(水曜日１０時～１６時・昼食付) カルメル会士
　７月２０日　９月２１日　１０月２６日　１１月１６日　１２月２１日
　２０２３年　１月１８日　２月１５日　３月１５日

・キリスト教霊性入門(木曜日１０時～１６時　昼食付)　松田浩一神父
　７月７日　９月１日　１０月１３日　１１月３日　１２月８日
　２０２３年　１月１２日　２月２日　３月２日

・一泊黙想会　(土曜日１６時～日曜日１６時)　カルメル会士
　７月２３日～２４日　　２０２３年
　９月１７日～１８日　　１月１４日～１５日
　１１月１９日～２０日　　３月１８日～１９日

・奉献生活者のための黙想会　(初日１７時～最終日朝食)　カルメル会士
　８月　１日(月)～１０日(水)
　８月１６日(火)～２５日(木)
　１２月２７日(火)～２０２３年１月　５日(木)

・召命黙想会(男女)４０歳まで(初日１６時～翌日１６時)　カルメル会士
　　１１月１１日(金)～１３日(日)

・カルメル会召命黙想会(男子)４０歳まで（初日１６時～最終日１６時）
カルメル会士
７月　９日(土)～１０日(日)　　２０２３年
１０月２９日(土)～３０日(日)　　２月　４日(土)～　５日(日)

・特別黙想会(初日２０時～最終日１６時)Sr.伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)
１１月２５日(金)～２７日(日)

＊ 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。 お申込みの際には、ホームページ（http://www.carmel-monastery.jp）なども合わせてご覧下さい。
＊ こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です（グループ、個人いずれも）。お気軽にお問い合わせください。
＊ 間違いを避けるため、お問い合わせは FAX・はがき・E メール等、文書でお送り頂けますと幸いです。

〒158-0093　東京都世田谷区上野毛 2-14-25
聖テレジア修道院(黙想)
Tel:03-5706-7355　　Fax:03-3704-1789
E メール：mokusou@carmel-monastery.jp
ホームページ：http://www.carmel-monastery.jp

一日黙想会

テーマ：『カルメル会聖人に学ぶ黙想会』

＊毎月第三水曜日（８月はお休み）

＊10 時～16 時　　3,500 円（昼食付）

＜2022 年度開催予定日（2022 年４月～2023 年３月）＞

2022 年	~~4 月 20 日~~	~~5 月 18 日~~	~~6 月 15 日~~	~~7 月 20 日~~
	9 月 21 日	10 月 26 日（＊第４週）	11 月 16 日	12 月 21 日
2023 年	1 月 18 日	2 月 15 日	3 月 15 日	

コロナの状況により中止となることもございます。
当面は少人数(定員 10 名)での開催とさせていただきます。

今泉　健神父

ジョニー神父

当修道院司祭が交代で指導いたします

お問合せ・お申込み: 〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25
カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

Tel: ０３－５７０６－７３５５　Fax: ０３－３７０４－１７８９
E-mail : mokusou@carmel-monastery.jp

★★★カルメル会召命黙想会★★★

カルメル会の霊性を生きることをとおして教会に生涯を奉げる道があります。
聖テレジアや十字架の聖ヨハネらの教えに培われて、人々に祈りと兄弟的な生活を証ししていく道です。この道に関心を抱き、心に神の呼びかけを感じている方のお手伝いをさせていただきたいと思います。

指導：カルメル会士

対象：カルメル会の召命に関心のある男子

場所：カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

日時：2022年 ~~4月 2日（土）～3日（日）~~ 16時～翌日16時

~~7月 9日（日）～10（日）~~ 〃

10月29日（土）～30日（日） 〃

2023年 2月 4日（土）～5日（日） 〃

会費：￥5,000（3食付き）

＊お問合せ　お申し込み：

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

〒158-0093　東京都世田谷区上野毛2-14-25

TEL.03-5706-7355　　FAX.03-3704-1789

Eメール　mokusou@carmel-monastery.jp

宇治カルメル会　黙想会案内
(2022 年度～)

【一般のための黙想】　中川博道神父
１泊２日（土曜 午後５時～日曜午後４時）
5:30 サルヴェ・レジーナ(修道院)から開始
９/１７～１９(２泊)　１０/２９～３０
２０２３年
１/１４～１５　２/１８～１９

【聖書深読】(午前 10 時～午後 4 時) 中川博道神父
６/２５　１０/８　１１/１９
２０２３年
１/２１　２/１１

【水曜黙想会】(午前 10 時～午後 4 時) 中川博道神父
７/１３　９/２１　１０/２６　１１/２３

【祈りの学校】(木曜 午前 10 時～午後 4 時) 松田浩一神父
７/７　９/１　１０/１３　１１/３　１２/８

【カルメルの霊性】(午後５時～午後４時) 中川博道神父
幼きテレジア　１０/１(土)～２(日)
十字架の聖ヨハネ　１２/１７(土)～１８(日)

【奉献生活者の黙想】(午後５時～午前９時) 一般可
~~７/２３(土)～８/１(月)　中川博道神父~~　**中止**
８/４(木)～１３(土) 松田浩一神父
９/５(月)～１４(水)　中川博道神父
１０/１３(木)～２２(土)　中川博道神父
１２/２７(火)～１/５(木)　中川博道神父

【祭日のミサに参加するために】
＊＜クリスマス＞
１２/２４～２５
チェックイン午後４時以降可、チェックアウト午前１１：３０
(講話なし 食事つき)

－その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします－

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけＦＡＸ、はがき、Ｅメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前９時～午後５時の間にお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合せ下さる様にお願い致します。

聖書は各部屋に備えております。またタオル類も準備してありますが、コロナ感染症対策のため各自専用分を持参してもかまいません。

現在は感染防止策のため人数制限をしていますので黙想参加希望の方は早めのお申し込みをお勧めします。

また参加の際には三密回避などを心がける様ご協力お願い申し上げます。

〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39－12
宇治カルメル会　聖テレジア修道院　（黙想）
Tel　0774-32-7016　Fax　0774-66-1191
E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp
http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/

新企画！

松田浩一神父（カルメル会）による黙想会

「祈りの学校」

キリスト教の祈りを学び、実践する企画です。イエス様から教会へ伝承された「祈り」に基づいて、そして教会の中で培われた「祈り」について学んでいきます。

すべて木曜日　10：00～16：00

~~5/19　6/2　7/7~~ 終了　9/1　10/13　11/3　12/8

持参するもの・・・筆記用具・ロザリオ

お問合せ・お申込みは,FAX、ハガキ、E-mail にてお願いします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39－12

カルメル会宇治聖テレジア修道院（黙想）

Fax　**0774-66-1191**（聖テレジア修道院（黙想）専用）

E-mail：teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

諸所の企画案内

真命山 霊性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
サダナ瞑想
慈しみ深き会

※注）
諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

真命山　２０２２年 ― 祈りの集いのご案内

イエス様のように祈る

毎月第２木曜日（１０:００～１５:００）

指導者　フランコ神父

１月１３日　「御旨を行う」(詩編４０：９)
２月１０日　「私が父の家にいるのは」（ルカ２：４９）
３月１０日　「イエスも洗礼を受けて祈っておられると」（ルカ３：２１）
４月　７日＊　「イエスはひざまずいてこう祈られた。父よ、
　　御心なら、この杯を」（ルカ２２：４２）
５月１２日　「天地の主である父よ、あなたをほめたたえます」（マタイ１１：２５）
６月　９日　「イエスは祈るために山に行き、神に祈って夜を明かされた」
　　（ルカ６：１２）
７月１４日　「父よ、わたしの願いを聞き入れてくださって感謝します」
　　（ヨハネ１１：４１）
８月　　休み
９月　８日　「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます」（ルカ２３：４６）
１０月１３日　「イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えて」（ルカ２２：１９）
１１月１０日　「イエスは天を仰いで言われた。父よ・・・」（ヨハネ１７：１）
１２月　８日　「天におられる、私たちの父よ・・・」（マタイ６：９）

予約は前日の１６：００まで

・個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします（要予約）

申込先
真命山　諸宗教対話センター
865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7
e-mail: shinmeizan@gmail.com
www.shinmeizan.com
tel:0968-85-3100

講話と祈りのつどい

コロナウイルス感染の広がりにより、

予定しておりました「講話と祈りの集い」の開催を

現在保留にしております。

状況の推移を見守りながら開催の有無を

当会のHPに掲載いたしますので、

そちらをご覧いただければ幸いです。

担当　中山真里

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
ノートルダム　・　ド　・　ヴィ
〒177-0044　練馬区上石神井４－３２－３５
TEL(03)3594-2247　FAX(03)3594-2254
e-mail　notredamedevie.japan@gmail.co

サダナ瞑想　～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

プログラムの詳細、開催状況、補充情報などはホームページをご覧ください。

http://sadhana.jp/　　申込み受付・・開始日の８日前まで

コース	日　時	指導	開催場所	申込み
札幌 フォローアップ	8/25(木)9:30- 26(金)18:00	同上	札幌カトリックセンター (札幌市中央区)	本間攝子 080-3260-1864 本間不在時　山崎有紀 090-4720-2157
札幌 Ⅰ&ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽ	8/27(土)9:30- 28(日)18:00	同上	同上	同上
妙高 Ⅰ&ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽ	9/2(金)9:00- 5(日)17:00 前泊可	Fr植栗	妙高教会　赤倉山荘 (新潟県妙高市)	佐藤範子 080-3145-3646
フォローアップ 新Ⅰ	9/4(日) 9:30-17:00	サダナ チーム	援助修道会リヒト宣教室 (市ヶ谷)*ミサはなし、椅子での黙想	来間(くるま)　裕美子※ 090-5325-2518 sadhana12378@yahoo.co.jp
サダナⅡ	9/15(木)17:30- 19(月・祝)16:00	Fr 植栗	汚れなきマリア修道会・町田黙想の家(町田市)	来間(くるま)　裕美子※
仙台・福島 フォローアップ	9/22(木)9:00- 23(金・祝)18:00 *前泊、継続宿泊、通いも可	Fr マルコ・アントニオ Fr植栗	ラ・サール会仙台修道院 (仙台市宮城野区)	長尾　雅子 090-3647-4135 0az2.540787230a@ezweb.ne.jp
仙台・福島 サダナⅠ	9/24(土)9:00- 25(日)18:00	Fr植栗	同上	同上
入門Ａ	10/2(日) 9:30-17:00	Fr植栗	援助修道会リヒト宣教室 (市ヶ谷)	来間(くるま)　裕美子※
浜松 サダナⅠ	10/8(日)7:30- 10(月・祝)16:00	Fr植栗	浜松三ケ日研修センター(浜松市北区)	同上

※申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は、090-5325-2518（来間）までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子　Tel&Fax ： 042-325-7554

●フォローアップおよびリピーターへの参加…サダナⅠを終えていること。

念祷の集い

～沈黙の内に神を求めて～

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室

時間：以下の木曜日
　　１４：００～１６：００(講話と念祷)
主催：慈しみ深き会

指導：九里（くのり） 彰 神父（カルメル修道会）

中止のお知らせ

2022年度予定

予定しておりました「念祷の集い」は教区よりの指示により、当分の間中止となりました。
秋口からの再開を予定しております。
再開については、再度紙面にてお知らせ致します。

連絡先：篠原 三恵子
Tel:042-473-6287
e-mail: mieko.shinohara@gmail.com

※各黙想会内容・日程等、 詳細については各問い合わせ先に、 ご確認ください。

『霊性センターニュース』
＊郵送お申込みのご案内＊

ご郵送は、基本的に１月から 12 月までとなります。
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から 12 月までとなります。
例：６月申込の場合は、７月号~12 月号（但し８月号は休刊）となり、
５冊となります。　ご希望の月数×250 円程度の献金を下記口座へお振込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座：　００９１０－６－３３３１８４
加入者名：　カルメル霊性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、郵便番号・住所、電話、Fax 等ご明記ください。
また、郵送お申込とは別に、ご献金もお願いしております。
その場合は、「献金」とご記入お願い致します。
何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院　「霊性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457
reisei@carmel-monastery.jp

男子跣足カルメル修道会のホームページ

http://www.carmel-monastery.jp
Google：「カルメル会」で検索できます

男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

霊性センターニュース掲載の情報も載っています

あとがき　・・・つぶやき・・・

わたしの自室に基本的にそろえている書籍の主なものは、教会の公文書です。神学校時代から様々な書籍に触れてきて、今、「教会公文書」の中に、確かな情報があり、最も深い現実と未来へのまなざしがあるように思えるからです。

第二バチカン公会議が終了したのが 1965 年、『現代世界憲章（4）』に「今日、人類史の新しい時代が始まっており、深刻で急激な変革が次第に全世界に広まりつつある」とあった一文を、半世紀を超えて今、日々実感しています。第二バチカンは、二一世紀のための準備でした。

二一世紀を迎えた直後、聖ヨハネ・パウロ二世『新千年期の初めに』(33) において、「霊性 (Spirituality)」を「時のしるし」と言明した直後から、世界的に様々な分野において「Spiritual（スピリチュアル)」な動きが顕在化していきました。

SDG s が採択された半年前には、『ラウダート・シ』をもって、この問題に取り組むべく環境学的・神学的な視点が与えられていました。コロナ禍によって世界が立ち止まらざるを得なくなった時、わたしたちは、「ラウダート・シ特別年」を祝いながら、「パンデミック後の選択」を検証してきました。

そして、今、ウクライナにおけるロシアの侵略戦争を前にして、兄弟愛と社会的友愛に関する回勅『兄弟の皆さん』を 2020 年 10 月 3 日（聖フランシスコの祝日）から、すでに手にしています。こうした一連の流れの中に、神の摂理 (providence) 的な働きが見えるように思っています。〈Providence〉とは、〈先見の明のあること〉と訳されます。まさに、教会をとおして、神はこの世界の出来事の先を見ながら、わたしたちに、心して準備し、生きていくように促していることを、日々、教会公文書を手に取りながら実感する日々が続いています。　　(Fr. 中川博道 o. c. d.)

＊＊＊＊＊＊　８月休刊のお知らせ　＊＊＊＊＊＊

「霊性センターニュース」は、８月（号）休刊となります。
９月号は、８月下旬発送予定です。ご了承下さい。